

# 吊り物に関する横浜アリーナの構造特性について

2013年5月

株式会社 横浜アリーナ  
営業部・総務部施設課

## ●趣旨

平素ご利用される皆様へ当館の吊り特性をさらに理解して頂くために、施工会社である竹中工務店の説明（別紙）を、より簡便に分かりやすく要約した文書として発行いたします。

## ●吊り構造の概略

図面上では下記のように分類しております。

赤線＝大梁、赤点＝大梁上のフック、 黄線＝中梁、黄点＝中梁上のフック、 緑点＝小梁上のフック、緑網掛け＝吊り推奨エリア
---

大梁にある吊りフックに荷重負荷の大きいものを吊ると、そこから分岐している中梁・小梁の許容吊り荷重が減少し、大梁以外で吊りにくくなる現象が起きます。同様に、中梁を中心に過重負荷の大きいものを吊ると、そこから分岐している小梁の許容吊り荷重が減少し小梁で吊りにくくなる現象が起きます。そのため、より多くの吊り荷重に対応させる場合は、可能な限り小梁についている吊りフック（緑点）を利用し（＝吊り推奨エリア内で荷重を分散させる）、荷重を分散させて中梁から大梁へ負荷を流す必要があります。また、各中梁・大梁への荷重も分散させて、一つの梁に荷重を集中させないことが、最大限に吊るためには必要となってきます。

## ●禁止行為について

弊社の吊り荷重システムは梁に直接荷重をかけることを想定しておりません。そのため、梁に直接ワイヤー等で結びつけることは禁止しています。さらに、梁の一部分に荷重がかかり、その部分に損傷が出た場合、そこから構造体に深刻なダメージを与える危険性があることを施工会社である竹中工務店から指摘されております。お手数ですが、周辺の吊りフックを使用した吊り方にご理解・御協力下さい。

## ●会場からのお願い事項

近年、スピーカーやLEDなど分散が難しい吊りものが増えていること、舞台範囲の縮小など状況も把握しておりますが、構造体の梁に許容以上の吊り荷重をかけることは安全上の理由から、許可することは出来ないこと、また安全にご利用いただき、事故の無い現場・会場を目指していることから、皆様のご理解・ご協力をお願い申し上げます。

## ●チェックシステムの貸与について

吊りフック荷重チェックシステムのソフトにつきましては、シミズオクト社及び日本ステージ社へ貸し出しを行いました。これにより、事前のシミュレーションを行っていただき、弊社、舞台事務所が最終確認を行うことで確認作業時間の短縮を図れるように致しました。何卒弊社のシステムをご理解、ご活用いただきますよう、お願い申し上げます。